

令和元年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和元年7月23日に文部科学省から提供された全国学力・学習状況調査結果について、上野原市の分析結果がまとまりましたのでお知らせします。

本調査は、本年4月18日に全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることなどを目的として、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施されました。

内容は、教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）と生活習慣や学習環境等に関する調査が行われ、市内4校の小学校第6学年の児童167名の内162名、3校の中学校第3学年の生徒186名の内174名が参加しました。

この調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、教育委員会としましては、今後、この分析結果を生かしながら、児童生徒の学力や生活習慣の向上を図り、教育委員会教育方針であります「確かな学力と豊かな心の育成を目指した教育の充実」の実現に向けて、なお一層の教育活動を推進していきたいと考えています。

子どもたちの健やかな成長のためには、家庭、地域の協力が欠かせませんので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、各学校における教科に関する考察と今後の対策等については、個人面談や学校だよりなどにおいて保護者の皆様にお知らせする予定です。

上野原市教育委員会

○教科に関する調査の状況について

	国語	算数・数学
小学校6年生	国とほぼ同等	国とほぼ同等
中学校3年生	国とほぼ同等	国とほぼ同等
	英語	
中学校3年生	国とほぼ同等	

*全国学力・学習状況調査では、主として「知識」に関するA問題と主として「活用」に関するB問題に分けて調査を実施してきましたが、令和元年以降は新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的な問題として調査を実施することになりました。

*教科に関する考察と今後の対策については、2ページ～4ページをご覧ください。

○生活習慣や学習環境に関する調査の状況について

*5ページ、6ページをご覧ください。



令和元年度 上野原市全国学力・学習状況調査 教科に関する考察と今後の対策

小学校(国語)

できている点	課題となる点	今後の対策
<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと。 ・話し手の意図を捉えながらかき、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること。 ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にどのような目的で伝えようとして書くのかを明確にし、どのように書くかと相手に伝わりやすいのか、なぜ、それがふさわしいのかなど、適切な記述の仕方を考えるように指導する。 ・資料を読む活動を通して、読み取った情報からわかったことをまとめる学習をする。さらに、複数の資料を比較しながら文章を読む活動を通して、事実と考えを区別して書くよう指導する。 ・漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導する。また、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習を行う。

小学校(算数)

できている点	課題となる点	今後の対策
<ul style="list-style-type: none"> ・台形について理解していること。 ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができること。 ・棒グラフから2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができること。 ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の順序についてのきまりは、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるように指導する。また、四則を混合させたり、()を用いたりして一つの式に表したりする活動を通して、計算の順序についての理解を深めていく。 ・適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、説明できるように指導する。児童自らが見出した除法に関して成り立つ性質を一般的に表現しようとする態度を育て、商といった算数の用語を適切に用いて説明できるように指導する。

令和元年度 上野原市全国学力・学習状況調査 教科に関する考察と今後の対策

中学校(国語)

できている点	課題となる点	今後の対策
<ul style="list-style-type: none"> ・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと。 ・話合いの話題や方向を捉えること。 ・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること。 ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと。 ・封筒の書き方を理解して書くこと。 ・語の一部を省いた表現について、語や文章の中で適切な活用の仕方を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、書き手の目的や意図、その効果について考えるよう指導する。 ・文章の構成や展開、表現の仕方について考える際には、文章中のどこに着目して考えたかなど、考えの根拠となる段落や部分を挙げられるようにワークシートの工夫をする。 ・これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を想像、分析、比較、対照、推論などによって、相互に関連づけて読むように指導する。 ・職場体験学習の礼状など実際に手紙を書く活動を取り入れるとともに、書写の学習の中で文字の大きさや配置、バランスなどを考えながら書くよう指導する。

中学校(数学)

できている点	課題となる点	今後の対策
<ul style="list-style-type: none"> ・反例の意味を理解していること。 ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができること。 ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができること。 ・問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反比例の表から、xとyの関係を表すことができること。 ・グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができること。 ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること。 ・資料を整理した表から最頻値を読み取る事ができること。 ・総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比例反比例と一次関数を比較しながら、その特徴について考察し理解を深める場面を設定する。 ・文章とグラフの関係性を捉える課題を取り入れ、グラフを読み取りながら理解を深める場面を設定する。 ・三角形の合同証明の問題を多く取り入れ解決させながら、証明の手順や合同条件について復習する。 ・資料を読み取る必要がある問題を与え、中央値や最頻値や平均値など様々な代表値を用いて分析させる。 ・連続したいくつかの奇数の和について、帰納的に考察させることで成り立つ事柄について予想し、更に演繹的に考させ、成り立つことを説明する場面を設定する。

中学校(英語)

できている点	課題となる点	今後の対策
<ul style="list-style-type: none"> ・教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができること。 ・日常的话题について、情報を正確に聞き取ることができること。 ・まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができること。 ・日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができること。 ・文の中で適切に接続詞を用いることができること。 ・与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができること。 ・与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な速さの音変化を含む英語に数多く触れさせ、英語の音声の特徴に慣れさせる。 ・個々の単語を抽出して指導するだけでなく、時制や語句の修飾関係に注目して英語を読み取ることができるよう指導する。 ・文章の要点を把握した上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域間の統合的な言語活動を工夫する。 ・コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、既習の語や文法事項等個別の知識を活用させて文を書かせる活動を設定する。 ・「話して書く」「読んで書く」等、ただ書くことだけを取り上げるのではなく、事前活動や事後活動と併せて一連のプロセスとして、領域を統合した学習ができるよう指導する。

生活習慣や学習環境に関する調査の状況

表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を肯定的な回答として割合を示しました。

* 次の調査結果は、重要で関心が高いと思われるものと課題となるものを抜粋しています。

1 生活習慣等について

[単位：%]

朝食を毎日食べていますか			
	市	全国	差
小	96.9	95.3	1.6
中	87.9	93.1	-5.2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか			
	市	全国	差
小	87.7	81.4	6.3
中	71.9	78.0	-6.1

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか			
	市	全国	差
小	96.3	91.6	4.7
中	91.3	92.8	-1.5

自分には、よいところがあると思いますか			
	市	全国	差
小	85.8	81.2	4.6
中	76.4	74.1	2.3

将来の夢や目標を持っていますか			
	市	全国	差
小	87.7	83.8	3.9
中	71.8	70.5	1.3

家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしていますか			
	市	全国	差
小	80.8	77.4	3.4
中	73.0	76.4	-3.4

難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか			
	市	全国	差
小	87.0	79.0	8.0
中	77.6	70.3	7.3

人の役に立つ人間になりたいと思いますか			
	市	全国	差
小	96.9	95.2	1.7
中	94.3	94.3	0.0

今住んでいる地域の行事に参加していますか			
	市	全国	差
小	79.6	68.0	11.6
中	61.5	50.6	10.9

- ・「朝食を毎日食べている」と答えた中学生の割合が少しずつ低くなっており、1割を超える中学生が朝食を食べないで登校しています。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた割合は、中学生では全国平均よりも低くなっています。昨年度の質問で、放課後の過ごし方として「テレビを見たり、ゲームやインターネットをしたりする」という答えが小学生では1番多く、中学生では部活に次いで2番目となっており、長い時間テレビを見たり、ゲームしたりすることによる学習や睡眠への影響が心配されます。
- ・「自分にはよいところがある」と答えた割合が全国平均を超えています。自己肯定感の低下が心配される中でよい傾向にあります。
- ・「将来の夢や希望を持っている」、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」、また「人の役に立つような人間になりたい」と多くの小中学生が答えています。今後もその思いを育てていきたいと思えます。
- ・「住んでいる地域の行事に参加している」と答えた小中学生の割合は、本年度も全国平均を超えています。今後とも、地域での温かいご支援をお願いします。

2 学習環境等について

〔単位：％〕

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）			
	市	全国	差
小	72.8	66.1	6.7
中	63.7	69.8	-6.1

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか			
	市	全国	差
小	75.3	71.5	3.8
中	52.9	50.4	2.5

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上）			
	市	全国	差
小	34.5	39.8	-5.3
中	31.6	27.0	4.6

学校に行くのは楽しいと思いますか			
	市	全国	差
小	92.0	85.8	6.2
中	77.6	81.9	-4.3

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか			
	市	全国	差
小	93.8	86.1	7.7
中	74.1	81.5	-7.4

先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか			
	市	全国	差
小	93.8	91.7	2.1
中	87.3	84.6	2.7

学校のきまり（規則）を守っていますか			
	市	全国	差
小	95.7	92.3	3.4
中	95.4	96.2	-0.8

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか			
	市	全国	差
小	97.5	97.1	0.4
中	90.3	95.1	-4.8

人が困っているときは、進んで助けますか			
	市	全国	差
小	91.4	87.9	3.5
中	85.0	85.9	-0.9

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか			
	市	全国	差
小	81.4	73.4	8.0
中	71.3	65.6	5.7

国語の勉強は大切だと思いますか			
	市	全国	差
小	95.1	93.0	2.1
中	91.3	91.0	0.3

算数や数学の勉強は大切だと思いますか			
	市	全国	差
小	96.3	93.7	2.6
中	82.2	84.2	-2.0

- ・家庭（塾等を含める）で1時間以上勉強する割合は、小学生では全国平均を超えています。中学生では全国平均よりも低くなっていますが、2時間以上勉強する割合は30%を超えており、全国平均とほぼ同じ割合になっています。
- ・普段（月曜日から金曜日）1日当たり30分以上読書をする割合は、小学生では全国平均よりも低くなっています。全国平均の割合も他の質問に比べ低く、長い時間テレビを見たり、ゲームしたりすることによる影響が心配されます。
- ・「先生が自分のよいところを認めてくれている」と答えた割合は、中学生では昨年度よりも減少しましたが、7割を超える生徒が「認めてくれている」と答えています。また、小中学生の約9割が「先生は分かるまで教えてくれる」と答えており、先生とのよい関係がつかわれています。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と9割を超える小中学生が答えています。また、「人が困っているときは進んで助ける」と答えた割合も高く、よい学習や生活の環境となっています。
- ・国語や算数、数学が大切だと思う小中学生が多くいます。また、それぞれの学習が将来や社会に出たときに役立つと考えており、学習に取り組むよい姿勢がうかがえます。

